

名古屋大学グローバル COE プログラム「地球学から基礎・臨床環境学への展開」  
伊勢湾流域圏「都市の木質化プロジェクト」

スイス連邦ローザンヌ工科大学ユリウス・ナッテラー名誉教授を招聘しての  
セミナーおよび講演会 実施報告

日時：2012年 11月12日（月）：9時～16時30分

11月13日（火）：13時～17時

会場：名古屋大学 ES 総合館 ES ホール

第1日（11月12日）

午前中、ナッテラー教授を名古屋市錦二丁目長者町に案内し、町並みを視察するとともに、地域住民と学生が森林・林業の再生を目的として木材を利用することによって街を活性化しようとしている取組について説明した。また、東海地域の学生たちが街のリノベーションプランを作成中であることなど、午後開催されるセミナーの予備的情報を説明し、セミナーの準備を行った。

午後、ナッテラー教授出席のもと、環境学・生命農学研究科の院生とともにセミナーを開催した。はじめに生命農学研究科・佐々木より「Wood Utilization in Urban Design aiming at the Reproduction of Japan's Forest and Forestry（森林・林業の再生に向けた都市の木質化）」と題して、名古屋大学 GCOE プログラムの「都市の木質化プロジェクト」に関する概略をナッテラー教授および参加者に説明した。次に、長者町の木質化に関する学生提案として、大矢彩加（生命農学 M2）が「Weaving Chojamachi by urban people and wood utilization（やまとまちで織りなす長者町）」と題して説明した。続いて都築知佳（生命農学 M2）が「Vitalizing Chojamachi with Steric Wood Deck（ウッドデッキの立体的な展開によるまちの活性化）」と題して説明した。これらのプレゼンテーションの後、長者町の木質化に関する2件の学生提案に関して、ナッテラー教授を交えた総合討論を行った。ナッテラー教授からは、長者町に2階建のウッドデッキを建築する案に対して一定の評価が得られ、アーケードを設けるプランの提



案があった。その際の木材の使い方、木材の接合に関する幾つかの考え方が示された。討論には、企業参加者も加わり、戦後日本の建築における木造がおかれた状況、森林資源の状況なども含めた討論とともに、長者町に設置されることが決まった3基のストリートウッドデッキに関する社会性の観点から討論があった。ナッテラー教授は熱心に討論に加わり、網野教授（法政大学）の通訳の助けもあり、学生を含む参加者の発言も増え、有意義なセミナーとなった。終了後、ナッテラー教授より「大変良いディスカッションができたと思う」との感想が得られた。なお、参加者は20名であった。

第2日（11月13日）

ナッテラー教授による **Einfach- und Hightech-Konstruktionen aus Holz für Energieeffizientes, Wirtschaftliches und Nachhaltiges Bauen (Simple and High-Tech Structures of Timber for Economic and Sustainable Support of our Forests)**、省エネで経済的で持続可能な建築のためのシンプルかつハイテク木構造)と題する講演会を開催した。参加者は58名（記帳による）であった。

まず第1部では、主にナッテラー教授が設計した木造建築作品が紹介され、自身の材料（森林資源としての木材）の使い方に関する考え方を織り交ぜながら、自身の作品の解説がなされた。途中30分間のコーヒープレイク(14:30-15:00)を挟んだ後の第2部では、引き続き作品の紹介とともに森林の持続性と木材利用・木造建築について、低質材（強度的性質が平均以下の木材）をたくさん使う工夫がいかに重要であるか、そしてこのことが森林の持続性に通じることを説いた。また、木材を大きな容積で住宅に利用することは断熱材を利用することなく居住性および省エネの向上に繋げることができ、環境に対する負荷が小さくなることを説いた。このような考え方は、ヤング係数が小さい木材は断面を大きくすることによってその低性能を補うことができ、このことが森林資源の利用促進につながり、森林再生に結びつけることができるとする「都市の木質化プロジェクト」の考え方に一致するものであると考えられた。ナッテラー教授の講演は、「都市の木質化プロジェクト」の今後の取組および臨床環境学の具体的な展開に対して多くの示唆を与えるものであり、大変有意義な催しであった。参加者より幾つかの質疑が成されたが、特に建築実務者より熱心な質問



がなされた。なお、ナッター教授は、聴講者の真剣な受講態度および続いて行われた熱心な質疑に感銘を受けたとのことであった。ナッター教授の講演は大変理解し易い英語で成されたが、加えて網野法政大学教授の通訳および解説により参加者にとってはより理解が深められたと思われた。さらに、質疑応答においても、網野教授の通訳は大変大きな理解の手助けとなった。

報告 佐々木康寿

(都市の木質化プロジェクト・生物圏資源学専攻)

名古屋大学グローバルGCOEプログラム「地球学から基礎・臨床環境学への展開」  
国際シンポジウム

**森林・林業の再生に向けた都市の木質化をめざして**

2012年11月13日(火)  
13:00~16:00

名古屋大学ES総合館 1F ESホール

ゲストスピーカー

**ユリウス・ナッター教授**  
(スイス連邦工科大学ローザンヌ)



### Julius Natterer

ローザンヌ工科大学教授。数多くの木造建築物の設計を手がける。1998年モントルーで開催された第5回国債木質構造会議を主宰。代表的な作品に、ミュンヘン・オリンピックの自転車競技施設、ハノーファーのエキスポ施設の屋根構造、スイス・ヴィミスの木造橋などがあげられる。



### お問い合わせ

名古屋大学大学院 生命農学研究科  
生物圏資源学専攻 生物材料工学研究分野

TEL : 052-789-4148 (佐々木)  
052-789-4146 (山崎)